



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567009002	科目番号	05670090
授業科目名	●生体の構造(器官の構造_機能と疾病)		
編集担当教員	中島 正洋		
授業担当教員名(科目責任者)	中島 正洋		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中島 正洋,七條 和子,三浦 史郎		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]321		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	医学部・原爆後障害医療研究施設 腫瘍・診断病理学(原研施設3階)		
担当教員TEL	095-819-7107		
担当教員オフィスアワー	8:30-17:30		
授業のねらい	国民の健康への関心が高まっているなか、社会人として、人体についての基礎的な知識を学ぶことは意義深いと考える。 本授業では、人体の各臓器の正常構造、疾患の成り立ちを理解することを目的とする。		
授業方法(学習指導法)	全15回、各臓器・疾病における専門の教員が講義を担当する。		
授業到達目標	人体の各臓器の正常構造を理解し、疾患の成り立ちを説明できるようにする。		
授業内容	人体の各臓器の組織構造を解説し、疾病の組織変化を理解する。		
	回	内容	
	1	呼吸器、循環器の構造：正常組織構造と機能	
	2	消化器、脳神経系の構造：正常組織構造と機能	
	3	泌尿器、生殖器の構造：正常組織構造と機能	
	4	リンパ・造血器、内分泌系の構造：正常組織構造と機能	
	5	皮膚・感覚器、その他の臓器の構造：正常組織構造と機能	
	6	消化管の疾病：良性疾患の組織変化と悪性腫瘍の組織構造	
	7	肝胆膵の疾病：良性疾患の組織変化と悪性腫瘍の組織構造	
	8	泌尿器の疾病：良性疾患の組織変化と悪性腫瘍の組織構造	
	9	生殖器の疾病：良性疾患の組織変化と悪性腫瘍の組織構造	
	10	循環器の疾病：良性疾患の組織変化と悪性腫瘍の組織構造	
	11	呼吸器の疾病：良性疾患の組織変化と悪性腫瘍の組織構造	
	12	リンパ・造血器の疾病：良性疾患の組織変化と悪性腫瘍の組織構造	
	13	脳神経系の疾病：良性疾患の組織変化と悪性腫瘍の組織構造	
	14	内分泌系の疾病：良性疾患の組織変化と悪性腫瘍の組織構造	
	15	皮膚・感覚器の疾病：良性疾患の組織変化と悪性腫瘍の組織構造	
16			
キーワード	人体、臓器の構造、疾患、腫瘍		

教科書・教材・参考書	指定の教科書はないが、参考書として 標準組織学(医学書院) 外科病理学(文光堂) など。
成績評価の方法・基準等	15回行われる講義に出席し、毎回出されるテーマに沿ったレポートを作成し提出する。 レポートの内容を評価し判定を行う。 定期試験は行わない。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567009001	科目番号	05670090
授業科目名	●生体の構造(タンパク質・核酸の構造と機能及び生成)		
編集担当教員	原 研治		
授業担当教員名(科目責任者)	原 研治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	原 研治,長富 潔,吉田 朝美		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]429		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	hara@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	水産学部 海洋生物化学研究室		
担当教員TEL	819-2828		
担当教員オフィスマワー	随時		
授業のねらい	授業のねらい: 生体高分子の中で最も多種多様の役割を持っているタンパク質の構造と機能を理解する。さらに生体を持つタンパク質の遺伝情報を担うDNAの構造を理解し、遺伝情報がどのようにして、親から子に移り、さらに細胞中でどのようにして発現されるのか(セントラルドグマ)を理解する。		
授業方法(学習指導法)	プリント、OHPあるいはパワーポイント、黒板を使用し講義する		
授業到達目標	タンパク質、核酸の構造及びセントラルドグマを理解し説明できる		
授業内容	<p>授業内容(概要) 生体高分子の中で最も多種多様の役割(筋肉収縮や生体防御など)を持っているタンパク質の構造と機能を理解する。核酸の構造と機能を理解し、タンパク質の遺伝情報が細胞中でどのようにして発現されるかを理解する。</p> <p>第1回 オリエンテーション 講義概要(アミノ酸とタンパク質)</p> <p>第2回 アミノ酸の種類と構造</p> <p>第3回 タンパク質の一次構造</p> <p>第4回 タンパク質の高次構造</p> <p>第5回 タンパク質の機能-酵素の分類と作用</p> <p>第6回 タンパク質の機能-酵素と補酵素(ビタミン)</p> <p>第7回 タンパク質の機能-生体防御タンパク質</p> <p>第8回 遺伝情報を担う物質 核酸の構造</p> <p>第9回 DNAとRNAの構造</p> <p>第10回 遺伝子DNAの発現</p> <p>第11回 DNAからRNAへの転写</p> <p>第12回 RNAからタンパク質への翻訳</p> <p>第13回 遺伝子発現の調節</p> <p>第14回 遺伝子クローニングの基礎</p> <p>第15回 授業の総括</p> <p>第16回 定期試験あるいはレポート</p>		
キーワード	タンパク質・遺伝子・セントラルドグマ		
教科書・教材・参考書	図説 生化学 石倉久之 著 丸善 など		
成績評価の方法・基準等	2/3以上出席の者で、レポート又は試験においてタンパク質の構造と機能及び遺伝子の構造と機能が理解できれば合格とする。		
受講要件(履修条件)	30名以内		
本科目の位置づけ			

学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4																																
開講期間																																			
必修選択	選択	単位数	2.0																																
時間割コード	20110567009005	科目番号	05670090																																
授業科目名	●生体の構造(細胞の不思議)																																		
編集担当教員	菱川 善隆																																		
授業担当教員名(科目責任者)	小路 武彦																																		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小路 武彦, 菱川 善隆, 宮西 隆幸																																		
科目分類	人間科学科目																																		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																																
教室	[全]205																																		
対象学生(クラス等)	全学部																																		
担当教員Eメールアドレス	tkoji@nagasaki-u.ac.jp																																		
担当教員研究室	医学部基礎棟2階																																		
担当教員TEL	819-7027																																		
担当教員オフィスアワー	木曜日 17:00-18:00																																		
授業のねらい	本講義では、生体の基本的な構成単位である細胞更には組織レベルでの構造に関する基本的な知識と理解を得る事を目的とする。具体的には、細胞内での蛋白質・遺伝子のダイナミックな動態制御に関して生理的な面から解説を行うと共に、細胞の分化・増殖・細胞死(アポトーシス)、更には生殖細胞やがん細胞の持つ生命現象の根幹としての不死性に関わる最新の知見についても解説する。																																		
授業方法(学習指導法)	講義毎に適宜プリント或いは液晶プロジェクター等を用いて授業を行う。																																		
授業到達目標	基本的な細胞質内の小器官の名称とその仕組み、DNAから蛋白質までの遺伝の基本的なメカニズム、核の構造と遺伝情報、細胞の分化・増殖並びに細胞死の基本的な制御機構等について説明できるようにする。																																		
授業内容	<p>尚、16回目に定期試験を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>細胞生物学の“こころ”:生命現象の不思議さを含めて細胞生物学の歴史、概念について総説する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>細胞中の分子と水とのつきあい:生命反応の基となる生体内の分子と水の相互作用</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>生体膜の構造:脂質2重膜</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>蛋白質の構造:細胞を構成する蛋白質</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>DNAとRNAの基本構造:核酸の基本的な構造</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>細胞と細胞の間には?:細胞同士の情報交換の場としての細胞間隙の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>細胞内小器官の構造と機能:小胞体、ゴルジ装置、ミトコンドリア等の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>核の構造と遺伝情報:核膜、クロマチン、核小体等の基本的構造単位と核と細胞質間物質輸送</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>遺伝情報の発現制御:DNA複製と転写、翻訳と翻訳後修飾の基本的な制御機構</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>細胞の分化と増殖:一つの受精卵から様々な細胞に分化していく細胞の多様性の不思議</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>細胞の死の形態:自ら死んでいく細胞死であるアポトーシスの制御機構とその最新知見</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>生殖細胞—いのちの伝達方法:次世代への遺伝情報を伝える精子、卵子の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>がん:無秩序に増殖する自分であって自分でない細胞であるがん細胞の基礎と臨床</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>筋細胞の形態と働き:動物機能を支えるその最高の仕組み</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総合討論:授業で学んだ生命現象の不思議について全員で討論を行う。</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	細胞生物学の“こころ”:生命現象の不思議さを含めて細胞生物学の歴史、概念について総説する。	2	細胞中の分子と水とのつきあい:生命反応の基となる生体内の分子と水の相互作用	3	生体膜の構造:脂質2重膜	4	蛋白質の構造:細胞を構成する蛋白質	5	DNAとRNAの基本構造:核酸の基本的な構造	6	細胞と細胞の間には?:細胞同士の情報交換の場としての細胞間隙の構造と機能	7	細胞内小器官の構造と機能:小胞体、ゴルジ装置、ミトコンドリア等の構造と機能	8	核の構造と遺伝情報:核膜、クロマチン、核小体等の基本的構造単位と核と細胞質間物質輸送	9	遺伝情報の発現制御:DNA複製と転写、翻訳と翻訳後修飾の基本的な制御機構	10	細胞の分化と増殖:一つの受精卵から様々な細胞に分化していく細胞の多様性の不思議	11	細胞の死の形態:自ら死んでいく細胞死であるアポトーシスの制御機構とその最新知見	12	生殖細胞—いのちの伝達方法:次世代への遺伝情報を伝える精子、卵子の構造と機能	13	がん:無秩序に増殖する自分であって自分でない細胞であるがん細胞の基礎と臨床	14	筋細胞の形態と働き:動物機能を支えるその最高の仕組み	15	総合討論:授業で学んだ生命現象の不思議について全員で討論を行う。
回	内容																																		
1	細胞生物学の“こころ”:生命現象の不思議さを含めて細胞生物学の歴史、概念について総説する。																																		
2	細胞中の分子と水とのつきあい:生命反応の基となる生体内の分子と水の相互作用																																		
3	生体膜の構造:脂質2重膜																																		
4	蛋白質の構造:細胞を構成する蛋白質																																		
5	DNAとRNAの基本構造:核酸の基本的な構造																																		
6	細胞と細胞の間には?:細胞同士の情報交換の場としての細胞間隙の構造と機能																																		
7	細胞内小器官の構造と機能:小胞体、ゴルジ装置、ミトコンドリア等の構造と機能																																		
8	核の構造と遺伝情報:核膜、クロマチン、核小体等の基本的構造単位と核と細胞質間物質輸送																																		
9	遺伝情報の発現制御:DNA複製と転写、翻訳と翻訳後修飾の基本的な制御機構																																		
10	細胞の分化と増殖:一つの受精卵から様々な細胞に分化していく細胞の多様性の不思議																																		
11	細胞の死の形態:自ら死んでいく細胞死であるアポトーシスの制御機構とその最新知見																																		
12	生殖細胞—いのちの伝達方法:次世代への遺伝情報を伝える精子、卵子の構造と機能																																		
13	がん:無秩序に増殖する自分であって自分でない細胞であるがん細胞の基礎と臨床																																		
14	筋細胞の形態と働き:動物機能を支えるその最高の仕組み																																		
15	総合討論:授業で学んだ生命現象の不思議について全員で討論を行う。																																		

	16
キーワード	細胞、核、蛋白質、遺伝子、生命
教科書・教材・参考書	Molecular Biology of THE CELL (Fifth Edition), Garland Science, Alberts B, Johnson A, Lewis J, Raff M, Roberts K, Walter P著を参考書とする。
成績評価の方法・基準等	定期試験(約80%)、課題レポート(約10%)、授業への積極的な参加状況(約10%)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



メニューへ



ログアウト



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

[戻る](#)

学期	後期	曜日・校時	木5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567009003	科目番号	05670090
授業科目名	●生体の構造(骨と関節のかたち)		
編集担当教員	弦本 敏行		
授業担当教員名(科目責任者)	弦本 敏行		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	弦本 敏行,佐伯 和信		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医歯薬学総合研究科・肉眼形態学分野		
担当教員TEL	095-819-7023		
担当教員オフィスアワー	13:00-17:00		
授業のねらい	ヒトの骨・関節の機能と構造の理解を通して、生物のからだの成り立ちに関する一般教養を深めること		
授業方法(学習指導法)	おもに板書によって説明しながら講義を進める		
授業到達目標	骨と関節の構造に関する生理学的意義を理解すること		
授業内容	各関節ごとにそれぞれの構成要素の解説を行い、構造の機能生理的意義に関する理解を深める		
	回	内容	
	1	総論:骨・関節の機能と構造(1)	
	2	総論:骨・関節の機能と構造(2)	
	3	総論:骨・関節の機能と構造(3)	
	4	総論:骨・関節の機能と構造(4)	
	5	総論:骨・関節の機能と構造(5)	
	6	肩関節	
	7	肘関節	
	8	手関節と指	
	9	股関節	
	10	膝関節	
	11	足関節	
	12	足と趾	
	13	脊椎総論	
	14	脊椎各論	
15	総括		
16			
キーワード	骨、関節、構造、機能、生理		
教科書・教材・参考書	とくに指定はしません		

成績評価の方法・基準等	授業中に実施する小テスト・レポートの合計点で評価します
受講要件(履修条件)	なし
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	ヒトにおける運動器の構造・機能・生理を理解すること
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金2																														
開講期間																																	
必修選択	選択	単位数	2.0																														
時間割コード	20110567009004	科目番号	05670090																														
授業科目名	●生体の構造(細胞小器官(オルガネラ)の構造と機能)																																
編集担当教員	山口 健一																																
授業担当教員名(科目責任者)	山口 健一																																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 健一																																
科目分類	人間科学科目																																
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																														
教室	[全]429																																
対象学生(クラス等)	全学部																																
担当教員Eメールアドレス	kenichi@nagasaki-u.ac.jp																																
担当教員研究室	水産学部海洋生物物理化学教室																																
担当教員TEL	095-819-2836																																
担当教員オフィスアワー	火曜17時～18時																																
授業のねらい	細胞の中に存在する種々の細胞小器官(オルガネラ)は、それぞれ特徴的な構造と機能を持ちながら、単独では存在し得ない、きわめて柔軟で動的な構造体であり、それぞれが協調しあつて細胞機能を発揮する。オルガネラを形成する生体分子、オルガネラの微細構造、オルガネラ間の連携プレーを眺めることで、遺伝情報の発現に基づいた細胞のダイナミックな構造と機能を理解する。整然さと歪さ、物質らしさと生物らしさの両面を備えたオルガネラの構造と機能から生命とは何かを考える。																																
授業方法(学習指導法)	主に、教科書の読解と板書、スライドおよび口頭による解説。理解度、自主性および探究心の向上度を把握するために、数回の小テストを行なう。																																
授業到達目標	生体の構造に関連する専門用語を用いて、生体分子、オルガネラ、および細胞の構造と機能について基本的な表現(図示および記述)でき、科学的・理論的に説明できるようになる。生体分子、オルガネラ、および細胞に関する基礎的な英単語・英術語や英文を解釈・和訳できるようになる。																																
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>細胞小器官(オルガネラorganelles)の定義/教科書LIFEについて</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生物学biologyについて</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>生体を構成する元素elementsと分子moleculesについて</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>生体高分子(タンパク質proteins)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>生体高分子(糖質carbohydrates/脂質lipids)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>核酸nucleic acidsと生命の起源</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>原核細胞prokaryotic cellの構造/回転する! べん毛flagella</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>真核細胞eukaryotic cell(動物細胞と植物細胞)の構造</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>真核細胞のオルガネラ1:リボソームribosomesと核nucleus</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>真核細胞のオルガネラ2:細胞内膜系endomembrane system(小胞体とゴルジ体とリソソームの連携)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>真核細胞のオルガネラ3:ミトコンドリアmitochondriaと色素体plastids(葉緑体chloroplasts)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>真核細胞のオルガネラ4:細胞の骨、細胞骨格cytoskeleton</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>真核細胞のオルガネラ5:細胞膜plasma membraneの柔軟性と多彩な機能</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>遺伝情報発現とオルガネラ1:転写translationと翻訳transcriptionの場について</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	細胞小器官(オルガネラorganelles)の定義/教科書LIFEについて	2	生物学biologyについて	3	生体を構成する元素elementsと分子moleculesについて	4	生体高分子(タンパク質proteins)	5	生体高分子(糖質carbohydrates/脂質lipids)	6	核酸nucleic acidsと生命の起源	7	原核細胞prokaryotic cellの構造/回転する! べん毛flagella	8	真核細胞eukaryotic cell(動物細胞と植物細胞)の構造	9	真核細胞のオルガネラ1:リボソームribosomesと核nucleus	10	真核細胞のオルガネラ2:細胞内膜系endomembrane system(小胞体とゴルジ体とリソソームの連携)	11	真核細胞のオルガネラ3:ミトコンドリアmitochondriaと色素体plastids(葉緑体chloroplasts)	12	真核細胞のオルガネラ4:細胞の骨、細胞骨格cytoskeleton	13	真核細胞のオルガネラ5:細胞膜plasma membraneの柔軟性と多彩な機能	14	遺伝情報発現とオルガネラ1:転写translationと翻訳transcriptionの場について
回	内容																																
1	細胞小器官(オルガネラorganelles)の定義/教科書LIFEについて																																
2	生物学biologyについて																																
3	生体を構成する元素elementsと分子moleculesについて																																
4	生体高分子(タンパク質proteins)																																
5	生体高分子(糖質carbohydrates/脂質lipids)																																
6	核酸nucleic acidsと生命の起源																																
7	原核細胞prokaryotic cellの構造/回転する! べん毛flagella																																
8	真核細胞eukaryotic cell(動物細胞と植物細胞)の構造																																
9	真核細胞のオルガネラ1:リボソームribosomesと核nucleus																																
10	真核細胞のオルガネラ2:細胞内膜系endomembrane system(小胞体とゴルジ体とリソソームの連携)																																
11	真核細胞のオルガネラ3:ミトコンドリアmitochondriaと色素体plastids(葉緑体chloroplasts)																																
12	真核細胞のオルガネラ4:細胞の骨、細胞骨格cytoskeleton																																
13	真核細胞のオルガネラ5:細胞膜plasma membraneの柔軟性と多彩な機能																																
14	遺伝情報発現とオルガネラ1:転写translationと翻訳transcriptionの場について																																

	15	遺伝情報発現とオルガネラ2: 翻訳後のイベントpost-translational eventsについて
	16	全授業の総括(定期試験含む)
キーワード	細胞、細胞小器官、オルガネラ、遺伝情報の発現	
教科書・教材・参考書	LIFE, the science of biology 9th edition (volume I, the cell and heredity)/ David Sadava et al./ W. H. Freeman & Co./ ISBN 978-1-4292-4645-3 英語で書かれた教科書であるが、アトラクティブな図解が豊富で分かり易く、和訳せずとも重要なポイントをつかめる。最新の重要な知見や研究手法に関するトピックスも豊富である。 生物学(特に生体の構造)に関する英語の理解も深まるので、一石二鳥。	
成績評価の方法・基準等	定期試験(90%)、小テスト(10%)	
受講要件(履修条件)	教科書LIFE, the science of biology 9th edition (volume 1)の入手と持参(第3回以降)	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「2011年度シラバス」、開講所属「**全学教育-全学教育_人間科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110567009006	科目番号	05670090
授業科目名	●生体の構造(人類学入門)		
編集担当教員	真鍋 義孝		
授業担当教員名(科目責任者)	真鍋 義孝		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	真鍋 義孝,加藤 克知		
科目分類	人間科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]102		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	manabe@nagasaki-u.ac.jp, k-katou@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医歯薬学総合研究科 顎顔面解剖学分野(歯学部)、理学療法学専攻(医学部保健学科)		
担当教員TEL	095-819-7625, 095-819-7964		
担当教員オフィスアワー	月～金 16:15～17:45		
授業のねらい	人類の進化、日本人の起源、身体変工の種類と意味、脊椎動物の進化について理解させる。		
授業方法(学習指導法)	オムニバス方式で講義を行なう。プリントを配付する。スライド等を使用する。		
授業到達目標	(1)人類進化の概略について説明できる。(2)直立二足歩行の起源とその意義を説明できる。(3)日本人の起源について説明できる。(4)歯からみた脊椎動物の進化の概要について説明ができる。(5)身体変工の種類と意味について説明ができる。(6)ミイラづくりの科学的・文化的背景について説明できる。		
授業内容	回	内容	
	1	生と死の人類学(ヒトは死んだらどうなるか)人類学とは、	
	2	骨とミイラの研究法	
	3	エジプト、アンデス、日本のミイラ	
	4	風俗や習慣としての「身体変工」の種類、方法、意味	
	5	古代アンデスの人類学	
	6	人類進化概説・猿人から新人(解剖学的現代人)まで	
	7	人類の拡散と人種(地域的変異)の形成	
	8	日本人の起源(旧石器時代～縄文時代)	
	9	日本人の起源(弥生時代以降)	
	10	脊椎動物における歯の進化(1)歯と進化、歯の基本的構造、歯の系統発生学	
	11	脊椎動物における歯の進化(2)硬組織の起源、歯の起源、脊椎動物の最初の硬組織	
	12	脊椎動物における歯の進化(3)脊椎動物の歯の進化(無顎類→→→哺乳類)	
	13	脊椎動物における歯の進化(4)哺乳類の適応放散(食虫目・霊長目・食肉目・齧歯目・奇蹄目…)	
	14	脊椎動物における歯の進化(5)霊長目(初期霊長類からヒト科へ)	
	15	総括	
16			
キーワード	人類の進化、人種、日本人の起源、生と死、ミイラ、身体変工、歯の進化		

教科書・教材・参考書	プリントを配布する。参考書は授業時に紹介する。
成績評価の方法・基準等	担当教官ごとに筆記試験やレポートを課し、その内容にて評価を行う。成績が100点満点中60点以上の者を合格とする。
受講要件(履修条件)	受講希望者が80名を超える場合は、抽選になることがある。 講義は毎回出席し、ノートを取る。質問は随時受け付けるが、オフィスアワーでも受け付ける。メールで面談の時間調整を行なうこと。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	人類の生物学的・文化的多様性、人類の起源と進化、変遷について理解を深め、問題解決能力を育成することを目的とする。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	関連する参考書などで予習を行なっておく。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.